

論文

## 材料学会シンポジウム論文・報告の執筆要領

中央揃え, 明朝体 10pt

補修 太郎<sup>\*1</sup>, 補強 進<sup>\*2</sup>, 施工 花子<sup>\*1</sup>, 材料 次郎<sup>\*3</sup>

(10pt 一行空白)

(10pt 一行空白)

中央揃え,  
Times 体 14pt, 行間 17pt,  
大/小文字の使い方に注意

### Outline of Manuscript Format

(10pt 一行空白)

右肩に注釈

Taro HOSHU<sup>\*1</sup>, Susumu HOKYO<sup>\*2</sup>, Hanako SEKO<sup>\*1</sup> and Jiro ZAIRYO<sup>\*3</sup>

(10pt 一行空白)

中央揃え, Times 体 10pt

2 文字  
空ける

**要旨**： 4~7 行まで。著者名から 1 行空白行を設けた後に記載する。左右は 2 文字分ずつスペースを空ける。要旨は論文の内容と結論を簡潔に伝え、ある程度の知識を有する読者ならば、要旨のみから論文の概要が理解できるようにする必要がある。要旨では本文中で言及していないことを述べてはいけない。また本文中の式、図、表、文献は引用すべきではない。使用するフォントの種類、大きさ、文字間隔、行間隔は本文のものと同一とする。

2 文字  
空ける

**キーワード**： 補修, 補強, のようにカンマで区切って 1 行以内で記載する。

(10pt 一行空白)

### 1. はじめに

原稿は A4 サイズとし、4, 6 ページのいずれかとする。なお、この執筆要領は全 3 ページであるが、実際には奇数ページ数の原稿は受理されないので注意すること。また用紙の上には 25mm、下と左右には 20mm ずつの余白を設け、本文を 23 字×48 行×2 段に配置することを標準とするが、ハード、ソフトの制約からこれに準拠することが難しい場合には、できるだけこれに近い配置とする。

第 18 巻より論文・報告集が電子化されたことに伴い、原稿はカラーのまま構いません。原稿には鮮明な図・表が適切にレイアウトされているものとする。

論文中では原則として SI 単位を用い、句読点は「.」「,」を用いる。

(章の前 一行空白)

### 2. 執筆の基本

日本語および英語のタイトル以外はすべて 10 ポイントのフォントを用いること。また特に指示のある部分以外はすべて明朝体, Times 体を用いる。

日本語タイトルは 14 ポイントを用い、用紙の 1 行目の左から 8 文字目から打ち出すものとする。ただし、1 文字目と 2 文字目には 10 ポイントで、「論文」「報告」の別を記す。日本語タイトルは 2 行以内で、2 行にわたる場合には、2 行目は 1 行目と同様に 8 文字目から打ち出す。

その後、1 行空白行を設け、5 名以内の著者名を中央揃えで記載する。ただし、各者の右肩には上の例のように注を設け、1 ページ目の最下に所属を記載

することとする。さらに 1 行空白行の後に 14 ポイントの英文タイトルを中央揃えで、再度空白行の後にローマ字表記の著者名を中央揃えで記載する。

これら著者名、英文タイトル、ローマ字著者名が複数行にわたるときには、2 行目以降も中央揃えとし、全体のバランスを考えて配置する。英文タイトルおよびローマ字著者名における大文字と小文字の使い分けについては例を参照のこと。

また要旨の前、およびキーワードの後にはそれぞれ 1 行空白行を設け、「**要旨**」「**キーワード**」という見出しはゴシック体とする。

その後、2 段組（コラム間隔は 7mm 程度）で本文を書き始める。

(章の前 一行空白)

### 3. 執筆の細則 (章)

ゴシック体 10pt

あらたな章の見出しの前には 1 行空白行を設ける。また章、節、項の見出しにはゴシック体を用いる。

#### 3.1 節の例

ゴシック体 10pt

節の見出しも、章の見出しと同様にゴシック体とする必要があるが、前に空白行は設けない。

#### (1) 項の例

ゴシック体 10pt

項の見出しも同様にゴシック体とする必要があるが、前に空白行は設けない。これ以下の分類を行なう場合の見出しの記号には、任意のものを用いてよいが、明朝体, Times 体を用いる。

章・節・項等の見出し (タイトル) 行のみがそれぞれの段の一番下の行に取り残されることのないように、レイアウトを調節する。

\*1 材料 (株) 建設事業本部設計課 課長

\*2 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 教授

\*3 東京工業大学大学院工学研究科社会システム工学専攻 修士課程

会員資格, 学位の表記は不要

所属名, 部署名の間空白は不要

図表中の文字は過度に小さくならないようにする

表-1 配合表 (表の例)

ゴシック体 10pt

G <sub>max</sub> (mm)	スランプ (cm)	空気量 (%)	W/C (%)	s/a (%)	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )				
					W	C	S	G	Ad.
20	12	4.5	60.0	46.2	175	292	826	980	0.73
20	12	4.5	50.0	44.2	175	350	769	989	0.97
20	12	4.5	40.0	42.2	175	438	703	982	1.21

(表の下 一行空白)

4. 図・表および数式

4.1 図・表の作成方法

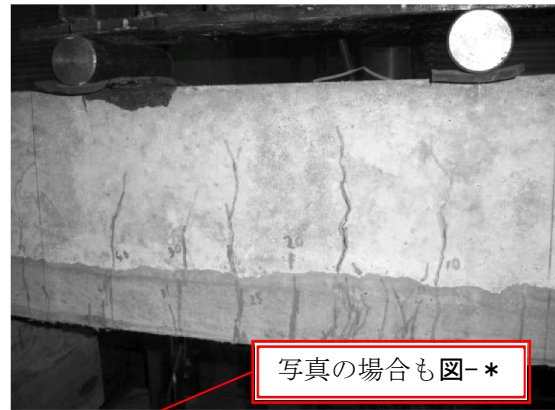
図・表は、本文の引用箇所に近い位置に配置する。

図・表のタイトルはゴシック体とし、本文の文字と同一の大きさのフォントを用いることとする。図番号およびタイトルは、図の下に、表番号およびタイトルは、表の上に、本文と同一の言語を用いて記載すること。図・表を本文中で引用する場合には、図-1のようにゴシック体を用いる。写真のタイトルも図-2のように、図と通し番号を用いる。

また、図・表中の文字は、本文と同一の言語を用いて過度に小さくならないようにし、できるだけ本文に用いたフォントに近い大きさのものを用いる。

ただし、 $f_c$  : コンクリートの圧縮強度 (N/mm<sup>2</sup>),  $a$ ,  $b$  : 定数,  $C/W$  : セメント水比。

(図の上 一行空白)

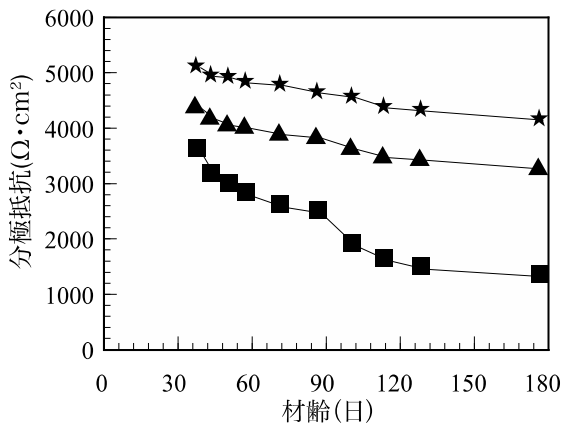


写真の場合も図-\*

図-2 載荷後の RC 部材 (写真の例)

(図の下 一行空白)

(図の上 一行空白)



フーチングからの距離 (cm)  
■ 5 ▲ 45 ★ 75

ゴシック体 10pt

図-1 分極抵抗の測定結果 (図の例)

(図の下 一行空白)

図・表は、本文部分と区別が容易なように、番号・タイトル部分を含む領域の上下を本文から1行ずつ空ける。止むを得ず図・表の左右に本文が回り込む場合には、本文から各行2文字分空けること。

4.2 数式の作成方法

数式は極力簡潔にまとめ、3文字空けてから書きます。式番号は(1), (2), (3)・・・とし、式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は、式(1), 式(2), とする。

$$f_c = a + b \times C/W \quad (1)$$

前3文字空白

右に寄せる

節、項の前の空白行は不要

5. まとめ (あるいは結論など)

本文の最後には、論文・報告内で得られた結果を要約する章を設ける。

- (1) 本文の最終行の後に1行空白行を設け、謝辞を設ける場合には、ゴシック体の「謝辞」という見出し行に続いて記す。
- (2) その後に1行空白行を設け、ゴシック体の「参考文献」という見出し行に続いて、本文中で用いた参考文献を記す。参考文献を引用した場所には必ず文献番号を上付き文字で記す。参考文献は、論文投稿締切までに発刊、公開されているものに限る。投稿中、査読中、印刷中等の論文、報告は引用してはならない。また、参考文献に記載した文献は、本文で必ず引用すること。
- (3) すべてのページの欄外(上)に、受付番号、筆頭著者名とページ数を記入すること。
- (4) 最終ページに大きく余白が残ることがないようにする。余白はページの1/3程度以下となるようにする。
- (5) 最終ページの左右の段は、ほぼ同じ位置で終了するように割り付ける。

(謝辞の前 一行空白)

謝辞

ゴシック体 10pt

謝辞, 参考文献とも、本文と同じ大きさの文字で

記す.

(参考文献の前 一行空白)

参考文献

ゴシック体 10pt

クリート中の鉄筋の腐食生成物の違いがひび割れ発生腐食量に与える影響, 土木学会論文集, Vol. 69, No.2, pp. 154-165, 2013.

- 1) 鎌田敏郎, 内田慎哉, 前裕史, 山本健太: 弾性波の入力方法がインパクトエコー法によるコンクリート版厚推定に与える影響, 材料, Vol. 58, No. 8, pp. 684-690, 2009. 8
- 2) 高谷哲, 中村士郎, 山本貴士, 宮川豊章: コン

- 3) Kobayashi, K., et al.: Corrosion Protection Performance of High Performance Fiber Reinforced Cement Composites as a Repair Material, Cement & Concrete Composites, Vol. 32, pp. 411-420, 2010.

参考文献は, 論文投稿締切までに発刊, 公開されているものに限る. 投稿中, 査読中, 印刷中等の論文・報告は不可.

左右が同じ位置となるように割り付ける

最終ページの余白はページの 1/3 程度以下となるようにする

ページ数は 4 ページ, もしくは, 6 ページのいずれかとする